

第5回シリア制裁ワーキング・グループ会合

2012年11月30日（金）

玄葉外務大臣冒頭

シリア制裁ワーキング・グループ第5回会合の主催国代表として挨拶申し上げます。まずは、本会合の共同議長を我が国と共に務めるモロッコ王国及び欧州対外活動庁に対し、御礼申し上げますとともに、各国及び機関の代表の方々、そしてシリア反体制派代表の方々の参加を歓迎します。

シリアでは、弾圧と暴力が20か月以上続いており、シリア全土での死者数は4万人を超え今も増え続け、近隣諸国に流出する難民も本年末までに70万人に達すると言われるなど人道危機が生じており、地域全体への波及が非常に強く懸念されます。

この喫緊かつ深刻な国際的課題となっているシリア問題に関し、一刻も早い暴力停止及び早期の政治的移行の実現のため、幅広い国際社会のメンバーが、ブラヒミ国連・アラブ連盟特別代表を支えつつ、シリア当局に暴力停止を呼び掛けてきました。

それにもかかわらず、アサド大統領は、依然として市民の犠牲を顧みず徹底抗戦の構えを見せています。国連安全保障理事会も本来の責任を果たせずにいる中で、国際社会が一体となってこの問題に取り組むことが益々重要です。

シリア問題の解決には、第一に国際社会が、シリア当局への圧力を加えることが重要です。この観点から、我が国は今月27日、シリア当局に対し暴力停止を要求する新たな措置として、これまで資産凍結措置対象として指定してきた23個人・16団体に、シリア政府現職全閣僚を含む36個人・19団体を加え、措置対象を計59個人・35団体と大幅に増加させました。

こうした圧力と共に、難民・避難民支援、シリア反体制派の一層の統合努力の支援、ポスト・アサドを見据えた国家再建努力の支え等を行っていくことも不可欠です。特に、今月新たに設立された反体制派組織の「国民連合」が、全てのシリア人が新しいシリアにおいて平和と繁栄を享受するという共通目標の

下、シリア国内の幅広い社会を代表する存在として、更なる役割を果たすことを期待します。

本日の会合の開催のみでシリアの問題が解決するほど物事は単純ではありません。しかしながら、アジア初のシリア・フレンズ関連会合となる本会合に、過去最高となる67の国・機関からの参加を得て、有意義な議論を行っていたことは、必ずやシリアにおける暴力の停止のための力強い政治的メッセージになると確信しています。

本会合の開催を通じ、暴力の停止、及び、民主的かつ多元的な国家再生に向けたシリア人主導の移行プロセスが加速化することを祈念しつつ、私の冒頭挨拶に代えさせていただきます。

ありがとうございました。

(了)